

総務常任委員会記録

平成 30 年 12 月 14 日(金)午後 1 時 17 分～午後 2 時 22 分(9 階 903 会議室)

○出席委員(8名)

委員長	小松 良行	副委員長	阿部 亨
委員	萩原 太郎	委員	羽田 房男
委員	小野 京子	委員	土田 聡
委員	粕谷 悦功	委員	宍戸 一照

○欠席委員(なし)

○議題

所管事務調査「広報政策に関する調査」

1. 行政視察の振り返りについて
2. 調査のまとめについて
3. その他

午後 1 時 17 分 開 議

(小松良行委員長) 引き続き所管事務調査について協議をいたしたいと思います。

資料を既に配付済みでございます。もうごらんになっていらっしゃるかどうかは思いましたけれども、思い返していただく中で参考にさせていただければと準備をさせていただいた次第です。

本日は、先月実施しました行政視察について皆さんからのご意見をお伺いしたいと考えております。その後前回の参考人招致や当局の説明、聴取内容なども、全体を通してこの委員長報告に盛り込むべき内容についてご意見などもいただければと思っておりますが、なお行政視察で聴取した内容については、前回の委員会でペーパーをお配りしました。A 3、この大きいやつ。今ほどお配りしました資料、前回実施しました参考人招致での皆様からいただいたご意見などということでもまとめさせていただいたものでございます。あわせてお配りした市政だよりとふくしま夢つうしん、これらの内容を踏まえて行政視察を終えての委員の皆さんのご意見をお伺いしたいと思っております。

では最初に、行政視察の意見の開陳をお願いしたいと思います。お考えの決まった方よりというか、ちょっと読む時間必要ですか。ちなみに、こういう縦長の以前お配りしました資料はお持ちになってますね。思い出してまいりましたでしょうか。どうですか、時計回りに羽田委員から。

(羽田房男委員) 各視察先は、それぞれの特色ある広報戦略をされているなというふうに思いました。個人的にですが、せんだって行政視察を終えてから八王子市に行ってまいりました、うちの連れ合い

もちよつと行ってみたいということなので。非常に特色あつたなというふうに思いました。特に先ほど専門監どこにいたのでしたっけというふうにお聞きしましたけれども、やはりプロといいますか、職員の中でもそういう専門的にプロモーションを組み立て得る職員がいらっしゃるということと、それを、あの方もおっしゃっていましたが、若いくせになんだみたいな、そういうことではなくて、そういう若い視点、今までの従来のな広報の視点、もうこれは当然必要ですけれども、その積み上げがありますから、それは全く否定することではございませんが、その積み上げてきた実績とあわせて新たなプロモーション、新たな視点で取り組まれているということについては非常に勉強になりましたし、福島市の中でも今度広聴広報課ということになりましたので、改めてそういう人材を育てていただければありがたいというふうに思っています。参考人招致のときにもお聞きしましたが、広報課の言われたとおりにやっているというか、お客様ですから、当たり前の話なのですが、指示するところというところであれば、指示する側のレベルをやはりきちっと上げていくということが必要なのではないのかなというふうに思いました。ただ、これは非常に批判をするわけではありませんが、岡崎市はちょっと、まあ、そんな程度でやりましょうというような、そういう取り組みが、しなくてもといいますか、岡崎城とか、岡崎公園とか、徳川家康というブランドがあるので、余力を入れていらっしゃるのかなという感じを、これ批判するわけではありませんけれども、すばらしい取り組みされているのですが、何かそういうようなほかの3市と比べると、ちょっとというところがありました。ただ、こういう広報というところで場所を選定していただいて、やられた正副委員長と担当職員に感謝申し上げます。

以上でございます。ありがとうございます。

(萩原太郎委員) 私は、どこへ行っても広報と広聴は一体だなというふうにして思ってきていまして、福島では分かれてしまったのがいいのか悪いのかなんて思っていたところ、今回は一緒になったというふうなことなので、これからまた期待したいというふうに思っておりますが、広報の内容で見て、杉並区の場合が市政だよりも準じたものを新聞に折り込みで配達というか、配っているというのは、そういうところあるのかなみたいなところでちょっと思ってきました。これ福島に置きかえると、これがいいのか悪いのかわからないですけれども、やはり私は田舎なものですから、市政だよりも配ったり、回覧板を配ったりして地域の親睦も図れるのではないのかなんていうふうな思いもしております。細かいところは、いろいろありますけれども、まずは一旦この辺で終わります。

(宍戸一照委員) 今回の視察の中身として、杉並区は市の広報紙という、その作成ということがメインに勉強させていただき、あとそれ以外の八王子市、岡崎市、磐田市についてはシティープロモーションというか、それとの連携というふうな形での視察であったということを考えると、まずシティープロモーションのほうの3市について、杉並区もそうだけでも、課題として市の課題、今このまちづくり、市を売り出すアプローチとしての課題というものが何なのかとしっかりと捉えられて、それをもとにしてターゲットは何なのと、どういうふうな方向性で市の売り込みを図るかという目的とい

う、目指す方向性というか、目標というものが明確になっていたなど。それに基づいてシティープロモーションをどういう方法ですればいいのかなというようなことが次のステップとして形成されて、こういうシティープロモーションの中での広報媒体を活用しようとか、広報しようとかかというふうなことが明確になって、あとそれについての取り組み方法で、あとはどういう目標が設定効果が得られるかなというステップの、それがしっかりと明確に持たれて、目的意識を持って広報されていたのかなと。

あとは、やはり岡崎市については、先ほど羽田さんから何でもあると。だけれども、何でもあるけれども、何もないようなものなことなので、大手広告の電通と協力をして、どういうふうなことで岡崎ブランドをつくっていったらいいかということがまず第一歩のステップとなって、それに応じてシティープロモーションをしていきたいと思いますというふうな考え方を明確に打ち出している。

それから、八王子市については、先ほどあるとおり、あくまでも市の課題は何だということを最重要に考えた場合、やはり若年層に住み続けてもらいたいと。我々の場合、観光とかいろいろありますけれども、あそこの場合は今市の課題というものを考えた場合、どういうふうにシティープロモーションしていくかということを明確にもう定住人口の維持とここにも書いてありますが、交流人口の増加、さらには若年層のあれだということで、それにふさわしいシティープロモーションをしているなど。それは、ある程度実を結びつつあるのかなというふうなことが明確に打ち出されていたと。

それから、磐田市については、余りここはぱっとはしなかったのだけれども、それなりにジュビロ磐田の本拠地であり、ワールドカップのサッカーという部分があるので、町なかに行ってみるとジュビロ磐田、ワールドカップのサッカーというものが前面に、ラグビーか、打ち出された、言うならば市の飾りつけ、それをやって一体感を創出しているなどというふうなのを感じました。

あとは、杉並区については、先ほどお話もあったように、広報監というのを設けて、いかに見てもらうかということと同時に、やはりどういう方に、福島市の場合にはあり得ないと思うのだけれども、どういう方々に見てもらおうか、どういう内容を伝えるか。それで、あとは必要な最小限の広報について郵送すればいいでしょうと、市の情報の。例えば予防接種だ何だかんだ、そこは大都市ならではの割り切っている。それで、見ている人が大体半分ぐらいでしょうというふうな割り切りの中で、広報紙の果たす役割はこういう役割だよということを明確に意識を持たれて、それに向かってまず見てもらいましょうと。見ってもらうためには、広報紙をどういうふうな体裁にすればいいか、言うなれば新しい広報戦略というものの中でそういうふうな考え方を明確に打ち出してつくっているなどということなので、それから考えると福島市においてもやはり例えば広報としてのシティープロモーションを考えたときには何を目的、目指す方向性として、まず市の弱点とか、市のやるべきこととか、そういうものを明確に見詰めて、それでそれを明確に打ち出すようなシティープロモーションをすべきではないかということを改めて、漠然と観光福島だから、こうだというのではなくて、その辺を明確に打ち出すような格好でこれからシティープロモーションをするのではないかということと同時に、やはり

広報紙についても杉並区の見やすいようにタブロイド版、これだとある程度字まで大きく、見栄えもしやすいし、見やすくなるのかなということで非常にカラフルだし、中の文字が大きいということが高齢者にとって見て張りのあるあれがやっぱり、あと必要な情報のところは事細かに書いてありますけれども、その辺のまず1ページを開いて見ていただくのだというふうな意識の中での広報紙づくりをしているということが勉強になりました。

以上でございます。

(阿部 亨委員) 私もこの杉並区と八王子ですか、この辺に関してはやはり大変勉強になったのかなと思うのですが、先ほど来出ています広報専門監、杉並区の。これに関しては、やはり所管の部とか課、これが広報課と連携をしておって、横串を刺して全体的に広報を行っている、広報活動。それと、やっぱりプロが入っている部分で、そういう部分もあるのかなと思うのですが、あとは八王子の若手の方を特化してやる気のある、そういう方がやっているという部分では、確かにすばらしい部分あるのかなと思いました。

あと、やはり広報効果の検証というのですか、これは我が福島市も、あとテレビ局もこの前お話を聞いた中でも、あと各自治体でもあったのですが、広報効果の検証ということに関しては、どうもなかなか難しいといえますか、そういう部分があると。でも、一方的な広報とかにならないためにも検証はやはり必要で、重要だという認識はある。ただ、その仕方が単なる広報紙の減りぐあいか、あとテレビとかだと視聴率とかあるのですか、そういうものでとりあえずはわかるのかなということだけれども、はっきりした本当にこうだから、こうだという検証はできていない。これが本当に課題なのだなというふうには感じました。その部分やはり検証をしっかりする、できるというようなやり方とかも含めてしっかりやっていくべきなのだなとは思いました。

以上でございます。

(粕谷悦功委員) 私、まず静岡県磐田は市民が広報というものに関係を持つかということの中でキッズレポーターなんていう子供を活用した広報、あるいは市民が参加しているような取り組みの内容を情報発信しているとか、このところは福島でもっとより市民に見えていただけるような広報活動としては、この辺の内容というのはやっぱり参考にしてもらう必要があるのではないかとこのように感じました。

それと、杉並区、広報専門監の取り組みということなのですが、広報専門監が杉並区の広報活動の中で中心になっている進めているのかなと思ったのですが、ちょっとしたアドバイザー的な内容になるのですか、写真の撮り方、チラシの製作助言とか、そういう内容で、意外と広報専門監として来ていただいているのだけれども、どうなのかなというふうに感じました。

それと、岡崎市は自分のところの市の広告代理店に委託したということなのですが、これはどこでもできるような内容で、取り組む、予算にもよるのでしょうかけれども、100周年事業も含めてやったということなのですが、どこでも行政がやっている取り組みの中のちょっとした違いですか、

八王子と杉並がプリントが多いので、やっぱりそれはインパクトがあったのだろうなと思ったのですが、杉並は三十五、六年前かな、杉並区民だったのですけれども、私。阿佐谷にいて、地元の。それで、役所はごみごみしているのだけれども、古い町並みなのです、高円寺、阿佐谷、荻窪。その中で新しい土地ないものだから、30年、40年たっても変わらないまちなのです。ただ、人は変わる。その中でターゲットを明確にしながら広報紙をつくっているというのはさすがだなと思っているのですけれども、いわゆる福島みたいに全年齢的につくっているのではないというところが特徴だなとは思ったのです。ちょうどそのとき八王子にも行っていたのだけれども、八王子もこれさっき観光地はないからというか、若い人たちをターゲットメインでやると言ったけれども、ここ世界的な観光地あるのだ。外国人いっぱい来ているのだ。高尾山。高尾町というところに行くと、いっぱいいるのだ。だから、そこに外国人は発信する必要ないぐらいにもうみんな来ているのだけれども、そのかわり若い人たちが八王子からいなくなっているということで、これターゲットとプロモーションの考え方をどちらもしっかりしているところがすごい。ただ、今粕谷委員が言ったように、福島市ではそうもいえないだろうなとは思っているところがひとつあります。

これは、視察ではないのだけれども、前の議会報告会で私のところで総務委員会の渋谷でやったやつ見たのかいと言われたから、俺、渋谷では見ていませんと答えたのだけれども、200万円だかのシティープロモーション、無駄遣いだと言われた。これも考え方一つで、皆さんごらんになったと思うのだけれども、私はその場で言えなかったけれども、議会で決まったことしか言えないからというふうに答えたのですが、土湯のこけしづくりのフィルムを撮って、それを渋谷の交差点に流しても足をとめる人は確かにいないだろうと私も思うのです。そういう意味では、ちょっとあれターゲットを間違っているのではないかなというふうには思う。その人は、福島大学の学生とかにつくらせたらいいでしょうと言ったけれども、それも短絡的だなと思うのだ。いずれにしても、あのフィルムは無駄遣いだという市民の声は、これはこれでそういう考えの人もいるので、真摯に考えなくてはいけないことなのだけれども、私は無駄遣いだとは思わないけれども、それをどうやって生かしていくかというのが大切なのだと思うのだけれども、ちょっと余計なことになってしまったけれども、以上です。

(小松良行委員長) それぞれ意見を伺いました。

広報専門監といったものの設置や、いわゆる市民に参加といった、そういったプロモーションというか、広報戦略の中に取り入れていくといった手法を用いるといった先進地で基本方針あるいは基本的な理念構築のもとにどうしたら効果的な広報を展開できるかという手法、技工を展開していくといった、その中でしっかりと戦略的にターゲットを絞ったプロモーションのあり方を実践していくといった点や、特にシティープロモーションといったときにも市政の諸課題をしっかりと把握した上で目的意識を持ってしっかりとターゲットを絞ったプロモーションのあり方といった点や、やはり、先ほどそうでしたが、成果の検証についてはなかなかこれぞといった回答がなく、難しい。しかしながら、これを取り組んでいくことというのは大変重要なことなのだろうと。やはりPDCAサイクルを回す

際にしっかりその成果を検証していくというふうなことがないと難しいと。いわゆるいい好循環を生んでいくためには、何かこういった手法というのは見出せないものかなと。今回いろいろ視察の結果がなかなかこの点にヒットするところはなかったようですが、それぞれに皆様からこうしたご意見をいただいたところでありましたけれども、この後全体を通してということになるのですけれども、今後この委員長報告をつくっていく上で、まずどういうことを盛り込んでいくかということで、今のような基本的なポイントですか、皆さんにここは絶対に押さえておいて、それについてこうした視察先や参考人招致の中でもこういった意見があったねと。また、当局でもその点については非常に悩ましく感じていたというようなことで、ここはしっかりと盛り込んでいきましょうということで皆さんのほうからご意見をいただければというふうに思うのですが、まとめに向かっていくにあたって盛り込むべき内容をぜひご意見としていただければというふうに思うのですが、今の皆さんのそれぞれの意見を反映させるといいますか、まとめると、ただいま申し上げましたが、その基本方針、ちゃんとした広報理念を構築した上でその手法、手続きをしっかりと組み立てていくというふうなまず基本原則というものをやっぱり取り組みをきちんと持つていく必要があるのだろうなという意見だったり、広報専門監あるいは市民参加といった庁内のみならず、専門的な見知や積極的に市民の魅力発信などを利活用したシティープロモーション、それから広報に向けた取り組みを進めるべきであろう。しかしながら、シティープロモーションにおいても科目としてはしっかりと伝える力としての中には市政の課題をしっかりと明らかにしながら目的、その中にはどこにどういう形で発信していくのだという、これと基本的な方針、考え方を軸にしながら取り組みを進めていくべきであろうといったことと、再三申し上げますけれども、やっぱりその課題の成果の検証というのをどうしていくかと。

（宍戸一照委員）当初我々の広報政策に関する調査として最初に掲げたテーマというものを振り返ってみると、まずは本市の広報戦略なのだけれども、市民への生活広報のあり方、あとは魅力発信広報、あとは広報媒体の運用状況、その辺を一つのポイントとして調査をしましょうというふうな一つの委員会の目的、今回の目的があるとすれば、今回の視察についてもその2つに、広報媒体、情報魅力発信広報、つまりシティープロモーションとの連携というものが一つの考え方。あと、生活広報というか、市民の皆様とにかく周知するかというふうな、この2つに大きく絞られてくるのかなというふうに思うと、やはりそれらの当初の目的に根差したようなまとめ方を、今皆様の意見を聞くと、大体はシティープロモーションについてはこうだねというふうな意見が。あと、生活広報についてはこうだねというふうなことにまとまってきたので、その辺を主体的に骨組みをまとめる方向性を取りまとめていく必要があるのかなというふうに私振り返って思ったものですから、そうするとまず魅力発信広報、つまりシティープロモーションとの連携だと思っただけけれども、本市のシティープロモーションをどうして本市の魅力を広報するかというふうな考え方とすれば、私とか、粕谷さんとか、土田さんとかの話をもとめると、やはり骨組みをしっかりとつくって発信、広報すべきではないのと。最初の部分の何を課題として、何を目的として、何で発信するかというふうなまとめ方というのが一つの

まとめ方、ターゲットをどういうふうに絞ってというようなまとめ方をしなくてはならないのかなと思うのと、あともう一つ、市民への生活広報、これは先進事例は大体ターゲットを絞っているのだ。だけれども、それで福島市はいいのかというふうな問題の捉え方がひとつ考えられるのかなというふうに思って、では福島市はどうあるべきなのかなと、ここから得たエッセンスというか、そういうのをまとめていくのかなというふうに考えた場合、福島市はやはり広報紙をつくる時、どういうふうに、ただ言えることは杉並区のようにいかに見てもらおう広報にすべきではないのかなと。

(小松良行委員長) 手にとってもらおうこと……

(宍戸一照委員) 手にとってもらおうこと、開いてもらうというのが広報監も盛んに力説されていたことなので、そこをどういうふうに我々として工夫していったらいいのかなというふうな、提言に盛り込むべきなのかなというふうな、大きく分けると我々の調査目的はそこなのだから、その辺を中心にまとめていくべきではないのかなというのが私の意見でございます。

(粕谷悦功委員) この市政だより、これ見ても役所のほうの一方的な情報ばかりなのだ。全てこれがあります、ほとんどそうなのだ、これ。90%がこれあります、財政こうでした。それで、今度成人式はこうですとか、ごみの収集、タンクのご注意とか、あとお知らせばかり、だあっと。こんなの俺も見ない、このお知らせなんていうのは。これもうちょっと市政だよりのあり方もやっぱり市民、キッズのこういう取り組みした内容を入れたり、どこだっけ、お知らせ内容は後ろに全部入れている、小さいのだけれども、びいっと入れているところがあったわな。八王子か……

(宍戸一照委員) 杉並もそう。お知らせは本当に細かく。

(粕谷悦功委員) そう。お知らせだよりののだ、これ。だから、必要だけれども、何かこんな枠とって、もうちょっと簡略化してやって、もうちょっとこの市政だよりのなんかも考えないといけないのではないかな、レイアウト自体も。だから、そういうものを専門監なんかいろいろアドバイスを受けるとか、そういうことをして、こういうのもやっぱり直さないといけないし、夢つうしんもここにあるのだけれども、ここでは何かいろいろ地域に入っているのだけれども、これ意外と見ないわな、一般の人、多分。どういうふうにこれ。

(宍戸一照委員) 福島ファンの方に。

(粕谷悦功委員) いや、それはそうだけれども、これうまく何か市政だよりの中にでもこういう内容を入れたり、そういうことできないのかなと、カラーのこれで。広報課でつくっているのだ、これ。市政だよりの紙面だ、これ。これ悪くはないけれども、何かうまくやっぱり市民に本当見てもらえるような内容でやらないと、これカラーでやってもったいないと思うのだ。市民、全世帯にこれも配布されるのかい。

(小野京子委員) 回覧ですよ。全員ではないよね。回覧でずっと回るだけだよ。だから、全員には行かないもの、お金がかかっているのだから。

(粕谷悦功委員) これのほうは何ぼかいいよ。その辺の広報の仕方なんかもよくやっぱり検討する必

要あると思う、これ。

(小松良行委員長) 先ほどの杉並区とか。

(粕谷悦功委員) うん。

(小松良行委員長) 市民参加で魅力的な人を、今言ったように、市の言いたいこととか、伝えたいことのみならず、市民が参加しながら魅力的な人イコール魅力的なまちになるだろうけれども、そういうことも発信していこうよ。そして、手にとって見やすいような紙面ということなのでしょうけれども、確かにせっかくこういう夢つうしんというのも一方で回覧配付されていることからいくと、こういうコンセプトと一緒にあるというふうに……

(土田 聡委員) 今杉並のを見させていただいたのだけれども、35年前私が住んでいたときは一回も見たことないから、よくわからないけれども、こんな感じでなかったと思うのだ。これ中身見たら、区からのお知らせというので、お知らせはやっぱりまとまっていると。福島市を見ると、平成31年の成人式があって、次は消防からタンクローリー危ないです、注意、これ全然違う内容が同じページに載っているのだ。やっぱりこういう何をどうやって知らせるかという、これがよく目に見えていないと思うのだ。だから、いずれにしても、財政上の問題もあるのだけれども、もう少しこれ市政だよりを大判にするとか、やっぱり、めり張りをつけながら、どこにターゲットを置いて、どういう広報にするかというのは、特に生活広報の場合は必要なと思っています。この間参考人招致でびっくりしたのは、郡山市との費用の差。あれだけ使って、我々も郡山のやつ、ずっと関心があるから、印象に残って余計そう思うのかなと思ったけれども、使っているお金そのものが違うという、やっぱりそこ避けて通れないのではないかなというふうには思ったのです。

(宍戸一照委員) 今テレビコマーシャルの話が出ましたけれども、やはり我々として参考人招致をしているのだから、メディアを。特にテレビ局を参考人招致しているのだから、それに対する判断というか、意見というものも述べなくてはならないと思うのです。

(小松良行委員長) では、今の視察の意見開陳もいいのですけれども、全体を通してに今度だんだん話をもう少し膨らませてお話いただければと思います。どうぞ、宍戸委員、今の。

(宍戸一照委員) テレビ広報という部分においては、それぞれが大都市圏という部分で、磐田市はめざましテレビの1分間の天気図、そこで動画を流しているだけであると。大都市圏なので、テレビ局の放映料が高いということもあるけれども、あとは八王子市にしても、杉並区も大きな都市であっても別にテレビどうだこうだ意識はなく、やはり余りそういうものには関心がないという、放送料も高いことあるのしょうけれども、だから関心がないということ。それと、福島市を振り返って見た場合、今の現在の状況での時間帯、郡山市に比べれば5分の1であるというふうなこともあるとすれば、現状のままで果たしていいのかというふうな部分があるとすれば、その分の予算があるならば、先ほどのこれではないけれども、これもう少し見やすいように作りかえて、広報紙に予算をつけて作りかえると。例えば杉並区だったらタブロイド版だから、多分でかいから、高いのしょうけれ

ども、そういうような考え方として、高齢化時代だから、高齢者に見やすいようにとか、福島市、杉並区みたいに5割しか見ていないのだと、そういうふうな割り切りからでつくるのがいいのか、全市民が見るのだよという前提でつくるならば、やはりもう少し見やすいあれば、その分の予算があるなら、そういうふうにつくりかえるべきではないのというふうな提言があってもいいのかなと思っていますところでは。

(羽田房男委員) 福島市の広報戦略会議の要綱では、会議の本部長ということで、広報戦略会議の本部長は政策調整部次長なのです。委員は、これ各部の次長さんなのです。先ほど磐田市の話も出ていますけれども、各課に配属している広報委員から各部の広報戦略委員、広報課という流れで市長の記者会見のネタなど集めているのだというふうに説明があったのですが、市長の記者会見のためではなくて、各課の課題というものが次長さんをお願いをしてやるというのではなくて、もうちょっと、例えば係長クラスとか、そういう声というか、視点というか、私はそういうものを、先ほども言いましたけれども、専門監ではないですけれども、いろんな若い方の思いとか見方、考え方というのを今までもう一回上乘せをしていけば、もっと3つの戦略かな、広報の目指すところ3つ、生活と危機管理と魅力発信とありますけれども、その中での具体的に戦略を3つお示ししていただいていますけれども、そういうところに到達するのではないのかなというふうに思います。

やはり先ほども申し上げたのですが、発信する広報課のマスコミやいろんな15秒のスポットをつくらうするときの広報課の指示するところとなっているところで、私も参考人招致の中でお聞きしたのですが、どういう意味なのですかと言ったら、こういう内容でやってくれということなので、結局広報課の考え方がストレートに当然放映されるのですけれども、あの中の説明でもありましたけれども、11月3日の下のところとか、写真だとか、あれは15秒でぱっと見てもわからないと思うのです。ですから、広くではなくて、スポットですから、ここというところでやっていただきたいというのが2点目です。

そういう意味では、いずれにしても各課からの係長クラスの広報担当というところを次長さんではなくて、それはやっぱり変えていかなくてはならないのではないのかなというふうには自分の頭の中では考えておりました。ですから、戦略会議の要綱もやっぱり見直すべきなのではないでしょうか。平成26年に発足しているわけですけれども、ですからもういずれもうちょっと、シティープロモーションなんていう新しい取り組みもされてきているので、この設置要綱なんかも変えていただければありがたいなというふうに思いました。

以上です。

(小松良行委員長) ネットでの配信なんていうのも後段のほうで補助があったからということでやられていた紹介がありましたけれども、やはりしっかりとそうしたプロモーションもそうですけれども、若い人へ向けてとか、いわゆるターゲットというふうなことで、今後紙離れも進んでいくことから、どんどんやはりスマホで見れるという、こういう紙面のつくり方というのもまた別に、今現

在は全体を紙面で見るとは可能になっているのですか。

(宍戸一照委員) 一応これ。部分、部分では見ながら……

(小松良行委員長) 部分、部分なのですよね、これ。

(宍戸一照委員) そう。だから、市の広報紙にQRコードがないのだ。

(小松良行委員長) 全体というのはないのですよね。部分、部分ですものね。

(宍戸一照委員) ないのだ。ここから入っていくということが部分、部分だけなのだ。この前、別なほうで聞いたけれども、QRコードは今検討中ですと、あのとき。いちいちhttpと、福島とかやらないとだめなの。QRコードでスマホからピッとやってみると見れるということができないのです、今。

(土田 聡委員) ペイペイが100億円あつという間になくなってしまったというのは、昨日大騒ぎになっていました。だから、SNSは特に若い人は見ているから、特化した部分でいうと、SNSとかデジタル関係は若い人向けにやってみてもおもしろいかなとは思った。幾ら市の広報いろいろ出てきても見ないもの。戦略ないから。だから、そういう意味では若い人向けにはもしかすると市政よりもSNSとかそういうもののほうがいいのかもしれない。これも断言はできないのだけれども。

(粕谷悦功委員) 福島市の次長さん集めて会議するというのは、おそらく市政だよりとか何かつくるから、各課でどういふことを今回は載つけたらいいのですかという、そういう程度のやつでやっているのだと思うのだ。あなたのところ何、いや、俺のところ今度これ。本当に広報のあり方どうあるべきかという、そういう検討ではないと思うの。だから、広報の概念からしっかりと頭に入れて、そうしたら広報どうあるべきかということの内容をしっかりとやっぴり市として取り組むということが必要だと思うのだ。広報課の職員もどうしたら、例えば福島市も広報よくなるのだということの考えは持っているのだからけれども、大体できていない、前任者の継承だけで物事をやっているという程度でずっと進んできているのだと思うの。そこをやっぴりどういふふうに市として広報に重点を置いた取り組みをして、予算の件もあるし、どういふふうにしていくかということをはっきりしないと、広報課長なんか言ったって広報のこと余りわからないで課長になってきて、担当になったからと言うから、わかるのは前やっていたことの内容程度だから、前やった内容の程度の継承だけでやっているということの内容になってしまうと思うのだ。その辺をしっかりと議会として今回調査した内容で訴えて、考え方はやっぴり既成概念にとらわれないで市民のためになる広報、こういうものをしっかりときちんとしていく必要あると思う。そう思う、これ。こんなのいつ見たって変わらない、これ。いっぱい出てきて、これは何だ、今度何やるから、これありますよとか、どうだこうだとかで、余りこういうのはだから、杉並のように後ろのぎゅっとなっていたほうがかえって市民見やすいと思うのだ。見る場合は、そういうのをやっぴりしっかりと取り組まなければいけないのではないかな。

(宍戸一照委員) あと、八王子だか忘れちゃったけれども、SNSという部分においてはフェイスブック、これをして、フェイスブックはまさにそのとおり実名なのだけれども、実名でフェイスブックの市政に対する意見を常に聴取していると。だから、インターネットのモニターは別にどうこうではな

くて、SNSで、例えばフェイスブックならフェイスブックにしておけば実名での書き込みになるわけだから、もうそれは常にやっていることなので、やっぱりそういうような部分のSNSの対応というものも。あとは、自分で気に入ったのは流せばいいだけの話ですから、そういう部分の取り組みの遅さというか、それもあると思うのです。

(小松良行委員長) 検証のあり方の一つとしてなかなか手段がないということだけ言っても……

(宍戸一照委員) ないとは言いつつ、そういうような部分でSNSならばフェイスブックあたりにすれば反応があるねと。実名だから、これは間違いない。ツイッターなら匿名だから、書きたいこと書くようになってしまうから、あれだけけれども、そうするとこういうような反応ありますよで私は済むと思うの。それが検証の手段だと思うのだ。多分八王子ではないかと思ったのだ、ここに書いていないけれども。SNS、フェイスブックって八王子だね。

(書記) 杉並区では広報紙とはまた別な情報をフェイスブックだけに載せたりなんていうようなことは。

(宍戸一照委員) やっているという。だって、フェイスブックは誰だってできるのだから。

(小松良行委員長) 広報広聴課としてようやく福島市もまたもとに戻ったとなると、広報に特化した広聴の機会とかというのも何かできないのですか。

(羽田房男委員) こだわるわけではないのですが、戦略会議の設置要綱のところ、次長さんなのですけれども、広報課からご説明いただいた適切な広報媒体の活用というところで、②のところ各担当課でホームページ、SNS活用の推進と、こうなっているのです。しかし、その各課で例えば担当者が上げてきても、結局次長の議論の中では意見が反映できるのでしょうかというところが非常に疑問で、あそこどこでしたっけ、若い方が非常に一生懸命やっていて、若いからいろいろ言われるのではないのみたいなこともいろいろ議論というか、話の中でありましたけれども、やっぱり各課の担当者も適切な広報の活用といっても、それを上げていった場合、次長さんたちが判断して、粕谷委員がおっしゃったように、今度俺のほうでこれ上げてくれと、次は俺のほうねという、そういうやりとりだとすれば、これは戦略の適切な広報の活用というのは反映できないのではないのかなと思うのです。ですから、ちょっとさっきも言いましたけれども、設置要綱というものをやっぱり変えていってということは、平成26年に変わったわけですから、平成27年に広報課と広聴課を分けたわけですから、1年後。ですから、そういうものをもう一度戻すといったときには従来のといたしますか、広報に関する調査の中の福島市の戦略というものをこういう要綱の中にもこうなのですということは入れていただかないと、何かちょっと一生懸命各課でいろいろやったとしても、次長クラスで上に上がっていかないというようなことがあるので、そこはもう一度ちょっとこれの、変更というわけではないのですけれども、それは改正と同時にこの基本戦略に合った中身の要綱に変えていただきたいなというふうに、こう思ったところです。

(小野京子委員) この広報戦略の中で調査した中でやっぱり一番は広報紙を見る方が79.7ということ

なので、先ほどの杉並は横でずっとわかりやすいということがあるので、これは縦書き多いですね、福島は。その内容とか、あとはアドバイス、さっき広報監があったように、そういうアドバイスするような人がいないと市の職員も限界に来ているし、予算も少ないから、余り変えられないのかなとなっているのかなということも心配されるので、やっぱり広報紙の中身を変えられるような人、誰かついて意見を入れてもらって変えるというほうも大事なのかなと、こう思います。

あと、昔子供のいろんな交流、子供の情報を流すということで、市民の方が、そういう専門をやっている方が一つのグループになって子供のそういう広報紙みたいのつくっていたのです。ずっとやっていて、途中でなくなってしまったの。全部この中に入っているから、もうやめましたと。お金のこともあるのだと思うのですけれども、子育てということを市長は待機児童に対してもすごく力を入れているので、そういう新たな子供の情報誌みたいのをつくれればまたいいのではないかなということもあるのです。昔あったのです、それ。でも、それ全部ここに入っているからということでもなくしたのだということ聞きました。そういうふうにはたくさん今はこういうできる方も女性でふえてきているから、そういう力をおかりして新たな子供の広報紙というのもいいのではないかなと思うのです。

以上です。

(粕谷悦功委員) あとは、やっぱりいろいろ動くお金かかるのだ。だから、おそらく市役所の幹部職員は、いや、金ないから、だめだと、予算ないのだから、だめだと終わってしまうのだ。だから、金をかけてでもやっぱりいい広報を取り組むという、こういう基本的な姿勢でまず広報が一番いい状態にするということの内容でないとだめだと思う。議会だよりもだめなのだ、これと同じサイズで、ごちゃごちゃ、ごちゃごちゃわけわからなくて。ほかの自治体に行ったら、議会に行ったら議会だよりなんかすごいでしょう。だから、そういうのをやらないといけないと言っているのだけれども、金がなくてできないのだから終わってしまうのだ。だから、それ誰がそこを結論を出してそういうことをさせていくのだということをやったりやらないとだめだと思うのだ。だから、議会は必要なお金は出してでもいい広報をちゃんとしろということの内容をやったりしっかり言わないとだめだと思う。

(小松良行委員長) 大事な点だということですね。

(粕谷悦功委員) ええ。金でみんなつまずいて、みんなふうんと黙っているのだ。

(羽田房男委員) 紙面のやつだって拡大すると何ページふえるから、金かかるからと、それでだめなのだ。

(粕谷悦功委員) 金かけたってやらなければいけない。

(小野京子委員) テレビだって一番お金かからない時間で長くやっているから、高くても本当に二、三分でみんなが見る時間、夕方とかにやっていくという、そういうのを考えないと。

(土田 聡委員) 郡山、これ5倍の金使っていると書くしかない。

(小松良行委員長) 福島も中核市になったのですから。

(小野京子委員) 渋谷も9時から11時の間、2時間の間に流していたと言っていました、11月。だか

ら、9時から11時にどういう人たちが見るのかなとか思ったのですけれども。その時間みんななどのぐら
らいの人見るのかなと思った。9時から11時の間だって、1カ月間。

(小松良行委員長) では、大体そんなものですか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) たくさんご意見いただきまして、ありがとうございます。次回以降、委員長報告
のまとめを行ってまいりたいと考えております。

次に、今後の調査の進め方を議題といたしますが、お手元に今後のスケジュール案をお配りいたし
ておりますので、ごらんいただきたいと思えます。

今後の調査についてですが、正副委員長といたしましては、別紙スケジュールのとおり、1月と2
月のうちに4回ぐらいと3月の定例会議で委員長報告をまとめていきたいと考えてございますので
が、以上のように進めていきたいのですけれども、まずそれはご理解いただけますでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) それで、きょうは2月までの日程をできれば決められればと考えておりまして、
それであと3回分ぐらいの日程を押さえないのです、この後。それでちょっと手帳などお持ちいただ
いたかというふうに思うのですが、いつがいいですかということだと收拾がつかないので、あと議会
事務局と議会日程を確認しながら、この辺でどうかというふうにちょっとご提案させていただきます。
まず1月の下旬なのでございますけれども、1月の9日水曜日10時はどうなのですか。9日だめな方
は。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(羽田房男委員) 8日の午前なんていうわけにはいかないのでしょうか。

(小松良行委員長) 今腹案が示されましたが、では8日の10時だったら大丈夫ですか。どうでしょう、
皆さんは。大丈夫ですか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) では、全員がそのようなことで対応可能ということで8日の10時のほうで。では、
この1月の下旬にもう一遍やりたいのですけれども、下旬のほうは非常に日程が立て込んでいまして、
申し上げますが、1月30日10時からでいかがかと。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) 1月30日、10時から。

ただでさえ来年のことと言うと鬼に笑われるのですが、2月も、ちょっと早いのですけれども、5日
火曜日10時。

(羽田房男委員) 大丈夫です。午後からはちょっと。

(小松良行委員長) ここまでちょっと決めさせていただいて、確認します。

1月は8日10時、30日10時、2月は5日の10時と、ここまでちょっとコンクリートさせていただき

たいと思います。ここら辺までで大体大筋が見えてくれば、しめたものかなと、正副勝手ながらそのように考えてございますけれども。それでひとつ当面の今後の日程については以上よろしくご協力いただきたいと思います。

それでは、その他を議題といたしますが、正副委員長のほうからは以上となりますけれども、委員の皆さんから何かございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) なければ、これで総務常任委員会を終了いたします。

お疲れさまでした。

午後 2 時 22 分 散 会

総務常任委員長 小松 良行